

文化とスポーツでつながる地域 見つける自分 育てる夢



MINA・KATSU



南あわじ市教育委員会

MINA・KATSU（ミナ・カツ）：南あわじ市地域クラブ活動の略称

☆MINA・KATSU（ミナ・カツ）とは

- ◎子どもたちを中心に考え、子どもたちのやりたいことができるような環境を整備構築し、選択の幅を広げられるよう知恵を出し合い、できることから取り組みます。
- ◎子どもたちの意見を取り入れながら、子どもたちが自主的又は主体的に文化芸術及びスポーツ活動に参加できる機会を確保します。
- ◎地域と連携し、持続可能で、多様な活動ができるように進めていきます。
- ◎学校部活動の指導に伴う教員の負担を軽減することで、生徒と向き合う時間を確保し、教育の専門性を高め、質の高い学校教育を提供できる環境を整えます。

子どもたちのみならず、地域の誰もが文化芸術やスポーツ活動に親しむことのできる環境づくりをめざしていく。⇒地域コミュニティの活性化

☆今後の方向性

◎令和10年度2学期から、部活動を完全地域移行
令和10年度入学の新1年生（現：小学3年生）の部活動の受け入れを行わない。平日に加え、土日も学校による部活動を行わない。

☆移行までのスケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
国ガイドライン	ガイドライン策定	改革推進期間			改革実行期間(前期:8～10年度、後期:11～13年度)		
兵庫県		準備期間 R6.7推進計画策定		実証期間	※実施を目標とするが、学校や地域の実情に応じて可能な限りできるところから 早期に実施		
南あわじ市	・協議会設置(R4.12～)、開催 ・地域受入団体等の発掘・調整 ・学校と団体調整 ・担い手応援補助金(R5～R7)			・計画策定(予定) ・指導者の確保 →教員等の兼職兼業 ・関係団体との調整 ・活動拠点の検討	運営整備		2学期から 完全地域移行

☆課題

- ◎受け皿の整備
- ◎指導者の確保
- ◎生徒の送迎
- ◎活動場所の調整
- ◎地域クラブ内でのトラブル対応

☆今後の検討事項

- ◎地域団体や地域指導者への支援
⇒種目や種類ごとの協会・団体との調整
- ◎教員等の兼職兼業制度の検討
- ◎保護者への負担軽減の検討
- ◎学校(運動場、音楽室等)の活用
- ◎トラブル対応マニュアル等の作成



☆背景

- ◎少子化に伴い、学校単位の活動や教員の働き方改革による従来の部活動運営維持が困難。
- ◎令和4年12月、国は、持続可能な活動環境を整備する必要がある、学校と地域の連携により新たな地域クラブ活動を整備するため、ガイドラインを策定。土日に加え、平日も順次移行。

☆南あわじ市中学校生徒数の推移について

(令和6年12月現在 単位:人)

	生徒数	減少人数	減少割合	中学1年	中学2年	中学3年
令和5年度	1,176	-	-	-	-	-
令和6年度	1,172	-4	-	中学1年	中学2年	中学3年
令和7年度	1,152	-24	2%	小学6年	中学1年	中学2年
令和8年度	1,100	-76	7%	小学5年	小学6年	中学1年
令和9年度	1,077	-99	9%	小学4年	小学5年	小学6年
令和10年度	1,101	-75	7%	小学3年	小学4年	小学5年
令和11年度	1,134	-42	4%	小学2年	小学3年	小学4年
令和12年度	1,088	-88	8%	小学1年	小学2年	小学3年
令和13年度	996	-180	16%	年長6歳	小学1年	小学2年
令和14年度	919	-257	22%	年中5歳	年長6歳	小学1年
令和15年度	845	-331	28%	年少4歳	年中5歳	年長6歳
令和16年度	773	-403	35%	3歳	年少4歳	年中5歳



☆南あわじ市中学校部活動一覧(令和6年度)

	西淡中	三原中	南淡中	沼島中	広田中
運動部	女子バレー	男子バレー	サッカー	女子バレー	野球
	女子バスケ	女子バレー	野球	男子バスケ	陸上
	男子テニス	男子バスケ	陸上	女子バスケ	柔道
	女子テニス	女子バスケ	剣道	男子テニス	卓球
	サッカー	男子テニス	ソフトボール	女子テニス	
	野球	女子テニス		サッカー	
文化部	吹奏楽	吹奏楽	郷土	吹奏楽	郷土芸能
	文芸	美術	理科	美術	文化
部合計	8	15	13	3	6



※二重下線:部活動指導員配置
☆地域クラブの県中体連主催大会

参加登録状況(淡路3市)

	R5	R6
南あわじ市	卓球・相撲 水泳	卓球・相撲 水泳 バレー
淡路市	陸上・柔道	陸上・柔道 バレー・卓球 水泳・サッカー
洲本市	柔道	柔道

☆これまでの市の主な取り組みについて

令和4年度から、地域連携・地域移行に向けて、できるところからできる範囲で進めており、現在2年目を迎えている。地域の団体(市外団体含む)で活動している生徒は、全体の2割程度おり、仕組みができあがってきている。

- ①アンケート調査(教職員・生徒・保護者・地域クラブ向け)
- ②地域受入団体向け説明会(文化芸術団体・スポーツ団体向け)
- ③地域受入団体への中学生の受け入れ協力依頼(令和6年12月現在)
【文化:受入44、派遣35】【スポーツ:受入35、派遣33】
- ④中学生の受入団体に対し、活動場所(公民館・スポーツ施設)の施設使用料の減免
- ⑤南あわじ市文化・スポーツ担い手強化応援補助金
R5実績:22団体(文化5、スポーツ17)2,940千円
R6(予定):23団体(文化7、スポーツ16)2,999千円
- ⑥指導者向け研修会(ペップトーク)の実施
- ⑦中学校部活動顧問と地域団体、教育委員会との意見交換

南あわじ 11



R5広報誌で特集